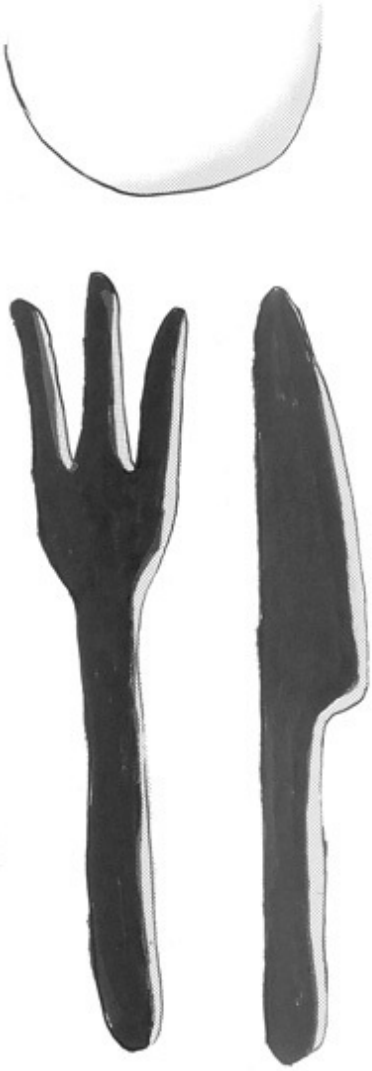


注文の多い料理店

漫画　あゆめ
原作　宮沢賢治

あちー

ザー
ザー
ミーン
ミーン

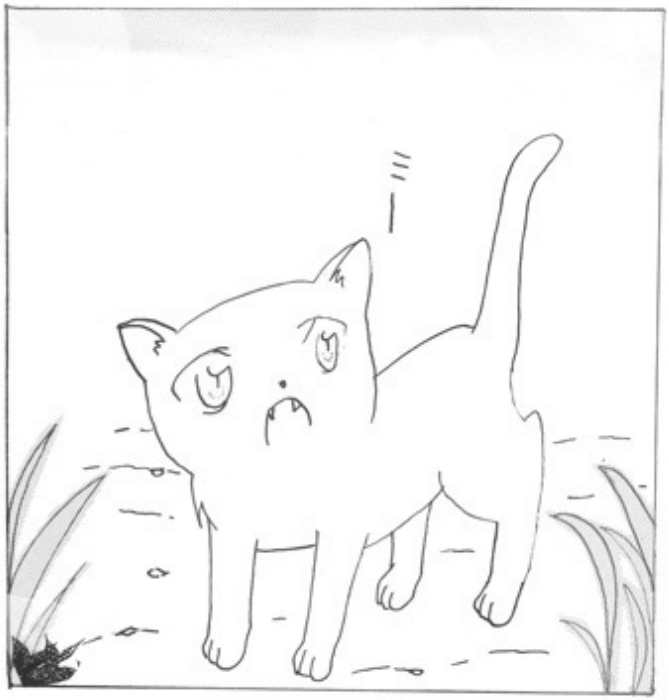
オレはたくや。
この町に住んでる中学一年生
あ〜〜
アイス食いてぇ

こっちはゆい。
幼なじみの同級生
おなか
壊しちゃうよ

平気 平気
オレのハラは…
シッ！

な…なんだよ？
なにか聞こえなかった？
？なんも
あそこだ！
！
ガサ
ビシッ
……！
……！

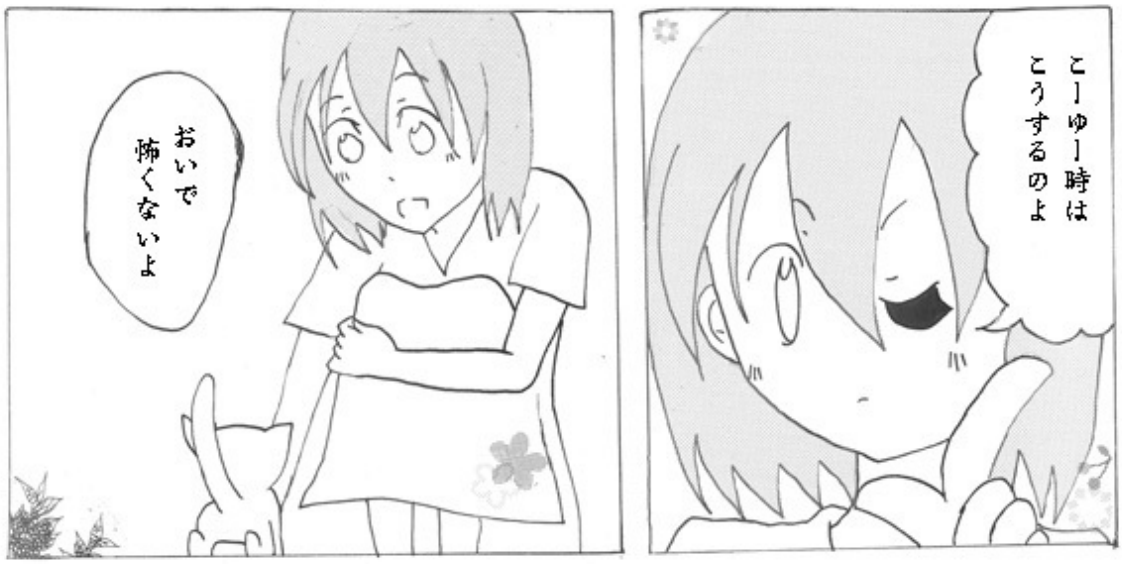
仔ねこだ！
かわいー


ミー

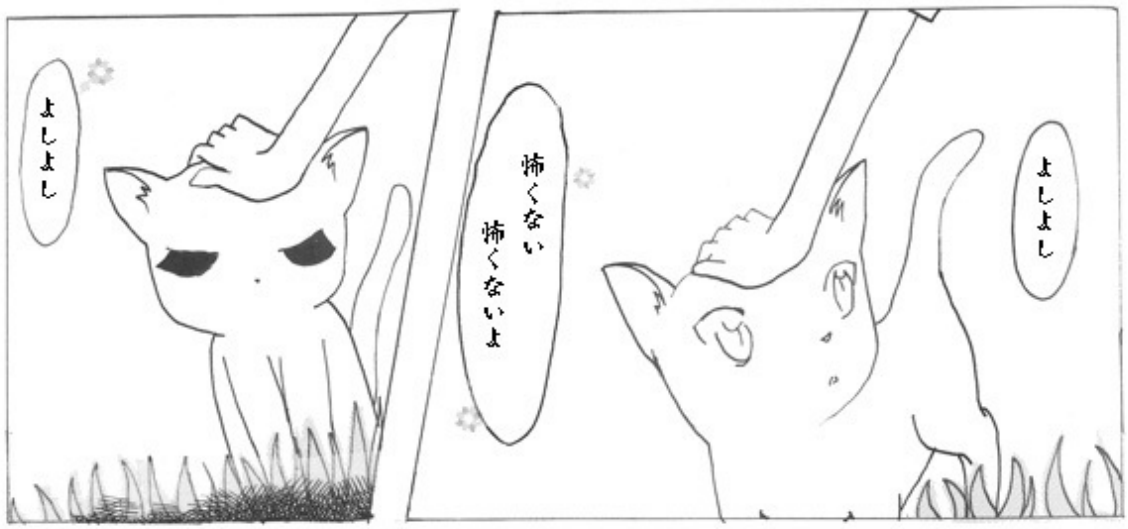
ケガしてん
じゃん
見せてみろよ

プチ

ねこのぶんざいで
――！
まぁまぁ
たくや…


こーゆー時は
こうするのよ

おいで
怖くないよ


よしよし
怖くない
怖くないよ
よしよし

お―
ギュッ
……

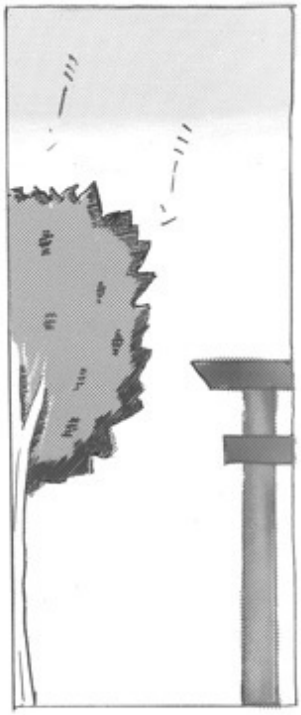
いっとくけど
飼えないぞ
オレん家も
お前の家も無理
だし…

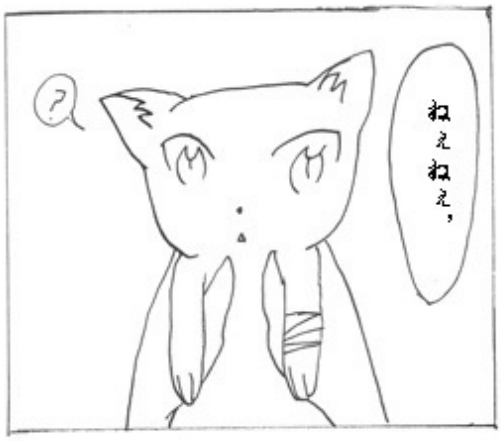
うん…分かってる
でも…
あーでも・・・

？
近くの神社の
裏ならかえるかもな
！

たくや…

こんな感じでいいんじゃね？
うんうんっ

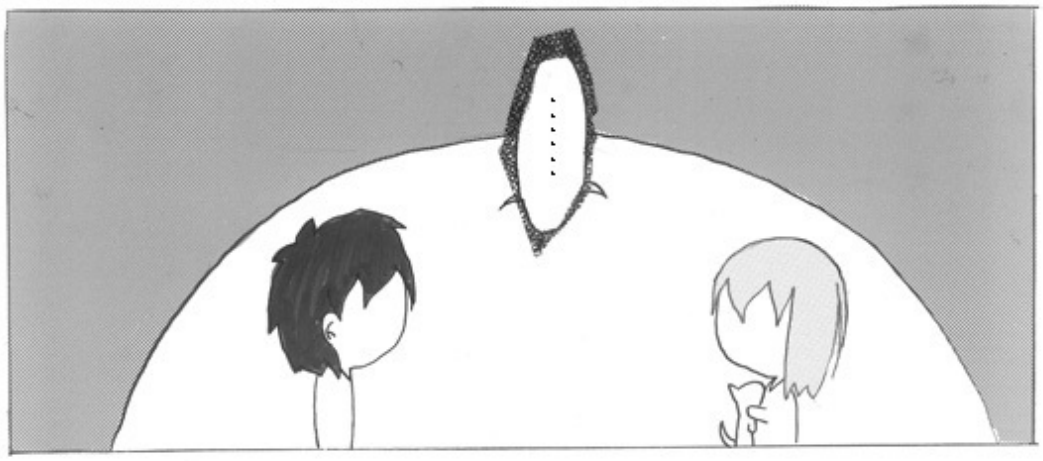

ミーン
ミーン


ねぇねぇ，
？

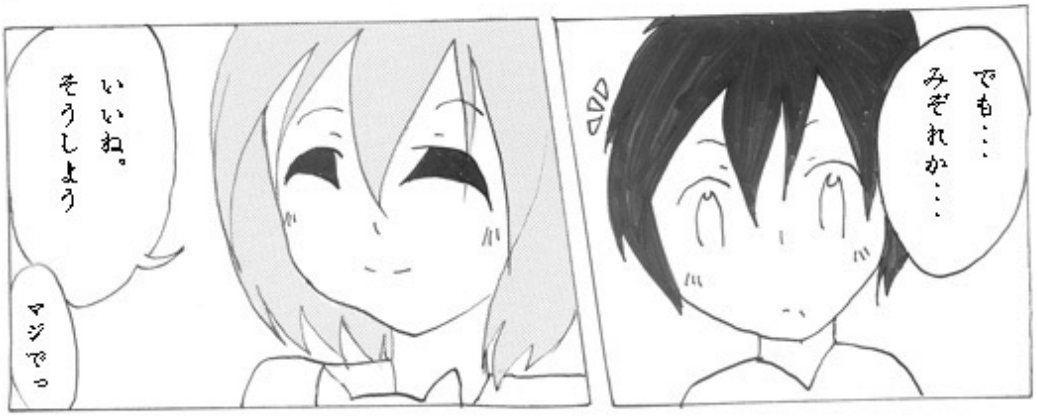
すごくいいよ！たくや！

お…おう…

名前きめよっねっ


……

あ！
みぞれ！
そいつ白いし，
なんか，
かき氷のみぞれ
食いたい気分だし
アイスじゃなかったっけ？

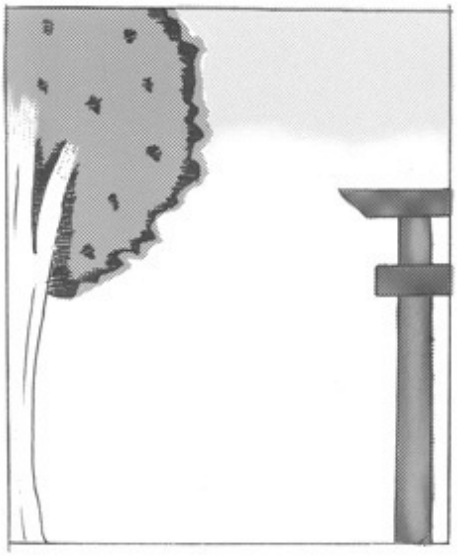

でも…
みぞれか…
いいね。
そうしよう
マジでっ

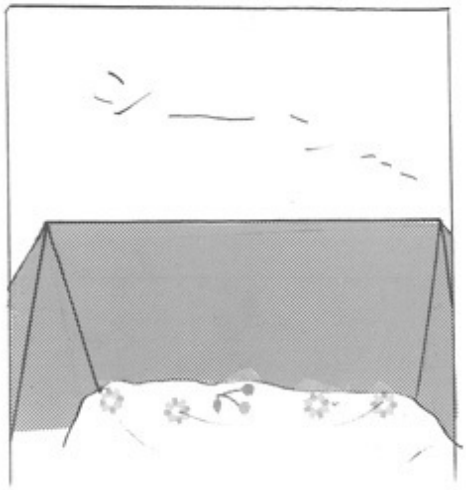
今日から
君はみぞれだよ
ねっ
みぞれっ
ミー
みぞれっ
ひょこ
あれっ？

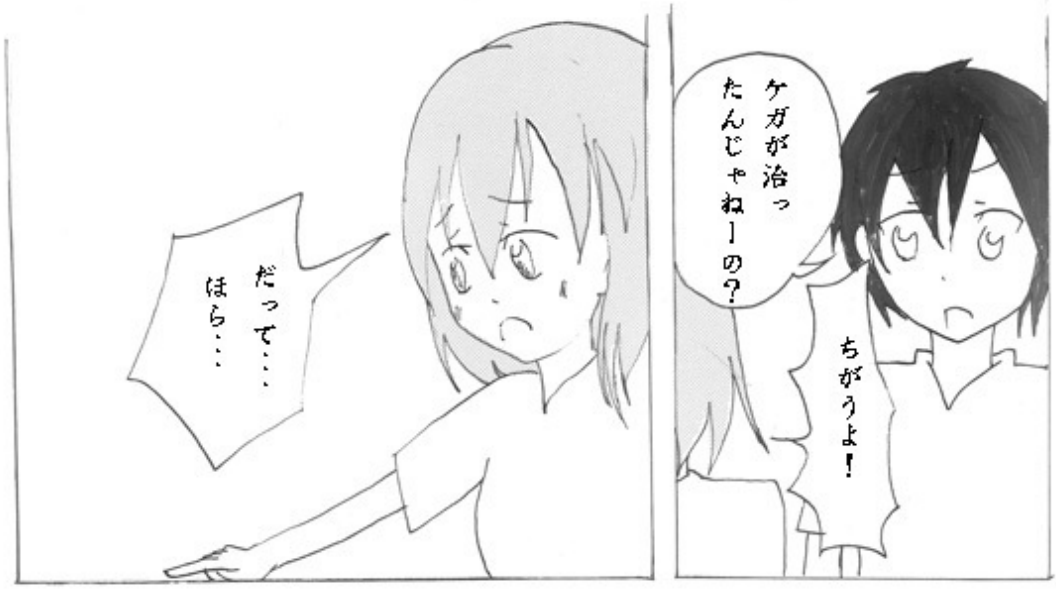
たいへんだよ！
たくや！

入るときくらい
ノックしろよ！
それどころ
じゃないよ！

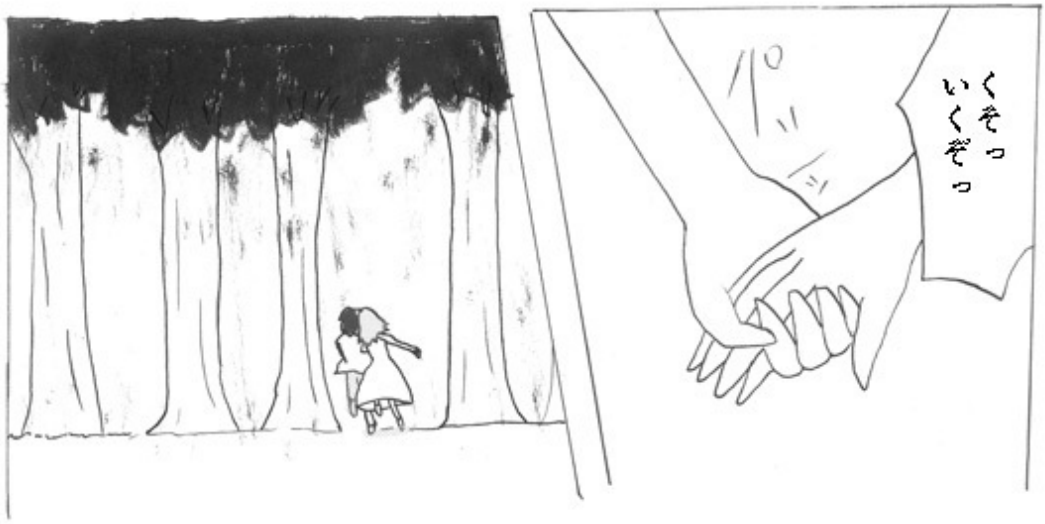
みぞれがいないの！
!?




シーン


ケガが治ったんじゃねーの？
ちがうよ！
だって…ほら…

きっと傷口が開いて…
!!


くそっいくぞっ

えーと…
あれ？

あの…
もしかして…
迷ったりしてる？

っていうか
この町に
こんな森
あったか？

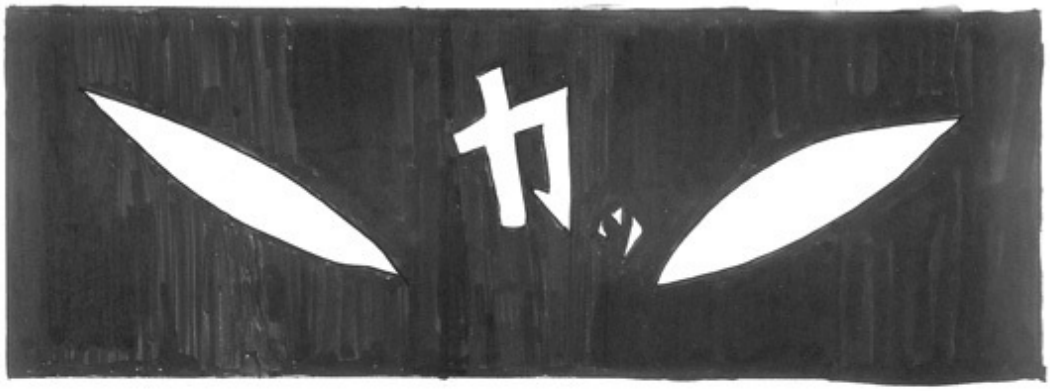
うーん…
なかったね…

だろ！
そりゃ迷うよ！

それに
だんだん暗くなってきたし
…
ハラも減ってきたし…
くそー…

バシ

でもこんなとこだし、オバケとか…
……


カ

なぁー！

ゼェゼェ
ハァハァ

なんだよいまの！
もう
いやだよ…

！
もしかして
きっきの
みぞれじゃ…
いや…
みぞれの目は
青色だ

もし
みぞれが
あんなのに
襲われたら
…
大丈夫！あいつは強い！
あわ
あわ
くそー
ゆいが不安になって
きてる…

どうすれば…

あっみて！たくや！

どうした！ゆい！

あそこ！

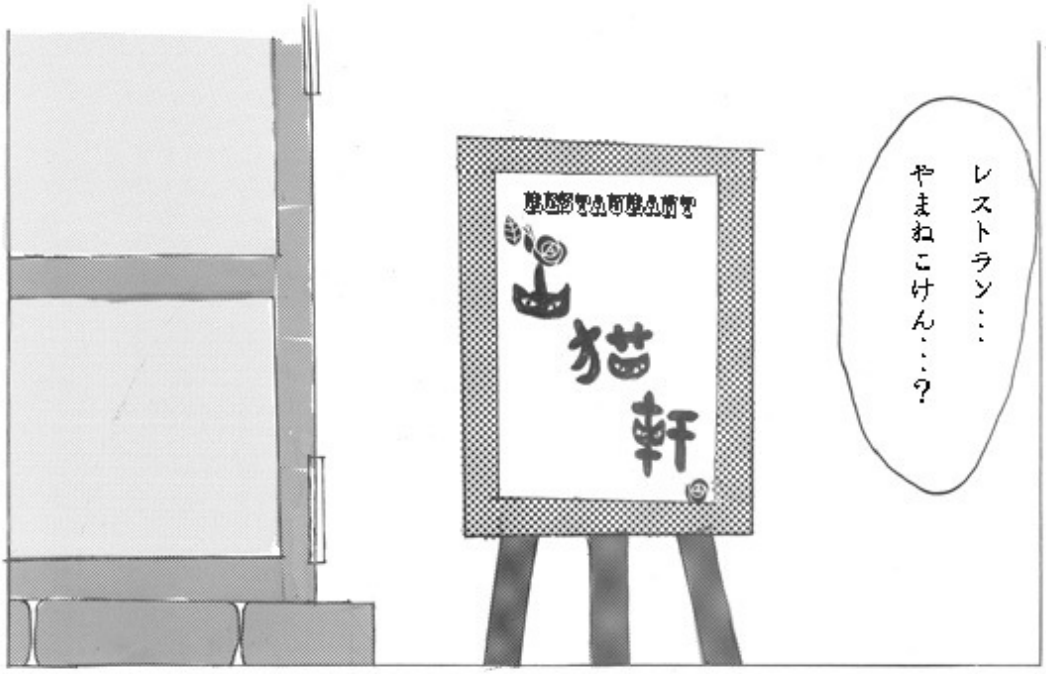
ほら

!!

家だ！助けてもらおうぜ！

うん！

えーと…


レストラン…
やまねこけん…？
猫軒

レストランか…
なんでこんな山奥に？
？

たぶん
はやって
るんだよ
看板もキレイ
だし
たしかに…

って，
入るの？
！
だって入らないと
なにもできないし。

でも…

いいからいいから！

みてみろよ

ゆい

なに？

カラカラン

いいから。

どなたもどうか
お入りください
決してご遠慮は
いりません

向こうから
入ってくれって
言ってんじゃん

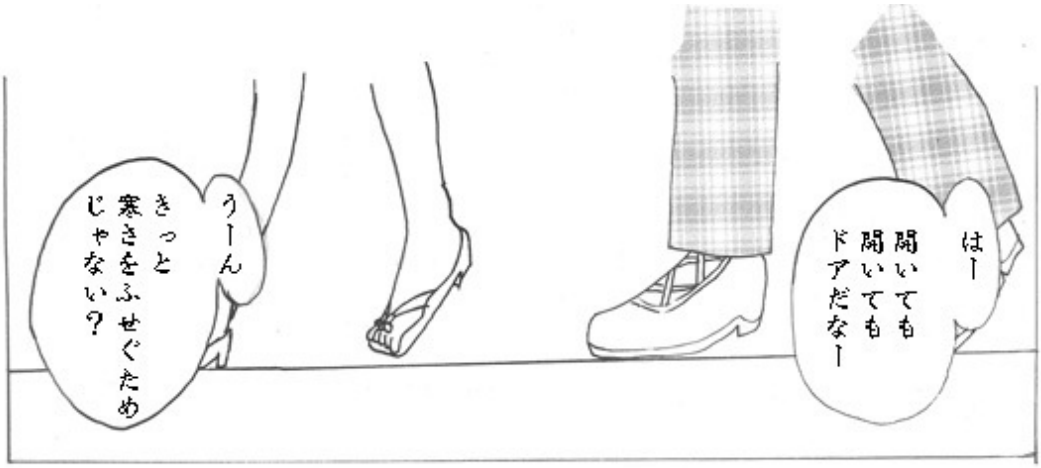
そうだけど…

大丈夫，
大丈夫。

がちゃ

……

特に太った方や
若い方は大歓迎
いたします
ふとっ…!?
大丈夫！
オレら若いから！
太ってないけど
若いから！
バシ
当軒は注文の多い
料理店ですから
どうかそこは
ご了承ください
うん？
えっと
次は…
ガチャ
注文が多いって
どういうことだ？
そのまんまの意味
じゃない？
ふーん…


はー
開いても
開いても
ドアだなー
うーん
きっと
寒さをふせぐため
じゃない？

ガチャ

ドアの次は
額かよ！
紙と金物類，
とがったものは
すべてここに
置いて下さい
まぁまぁ
そう怒らない
でよ。ね？
…
チェッ
変わんねーよ
これで
いいのかな

はぁ
どんだけあるんだよ
うーん
でも
これだけあれば
もうないよ。たぶん…
……
壺の中のクリーム
を体中にぬって
ください
なんで体に
クリーム?!
たくや!
……
じゃあ
どうすんだよ。

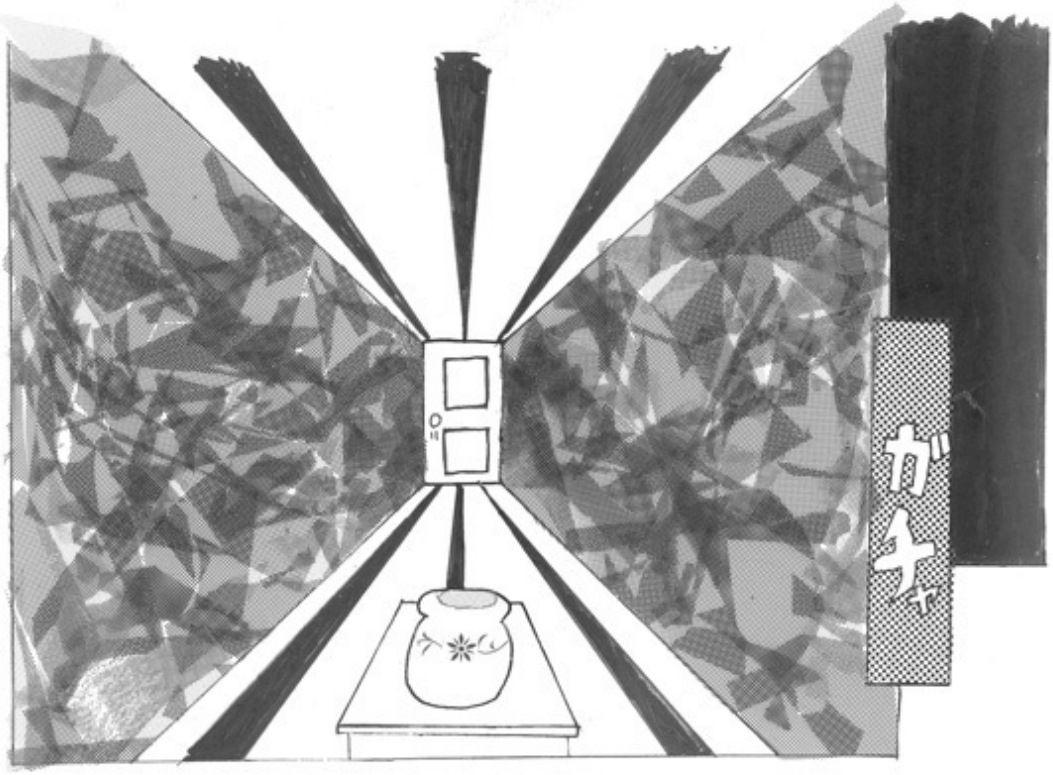
じゃあ
塗るから
あっちむいてて。
はいはい…
クルッ
って
本当に塗るのか！
それしかないでしょー。
あっち向いてて。
わ…分かったよ…
クルッ
でも…
確かにへんだ…

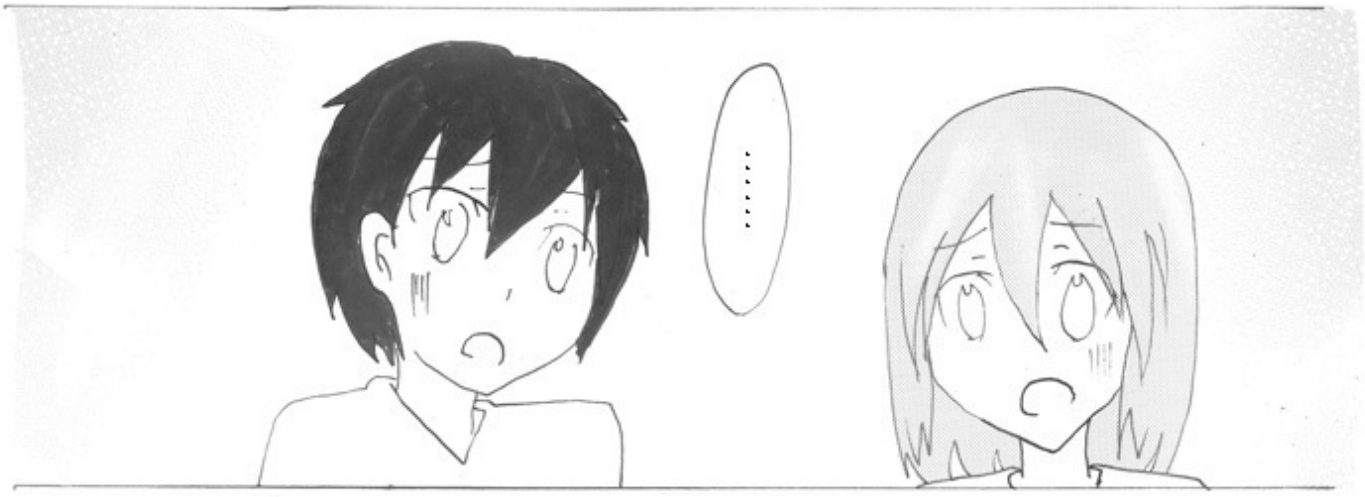
料理店とかいいながら人の気配もないし…
へんなこと書いてるし…
フリ
フリ
もういいよ。
お…おぉ
アレ？このクリーム甘い香りがするね。
ん……
ホントだ…
次…いこうか…
あぁ。

もう少々お待ちください
すぐ食べられます
早くあなたの頭にビンの
中の香水をかけて
ください
えー！
ガチャ
ビンってこれかな？
キュポッ
あれ？
この香水酢くさいよ？

ゲー！
マジかよ！ていうか
なんで料理店で春水？
それは
きっと・・・
・・・・・・

あーもう！
どうにでもなれだ！
バシャッ
たくや・・・
私にも
かして。


ガチャ

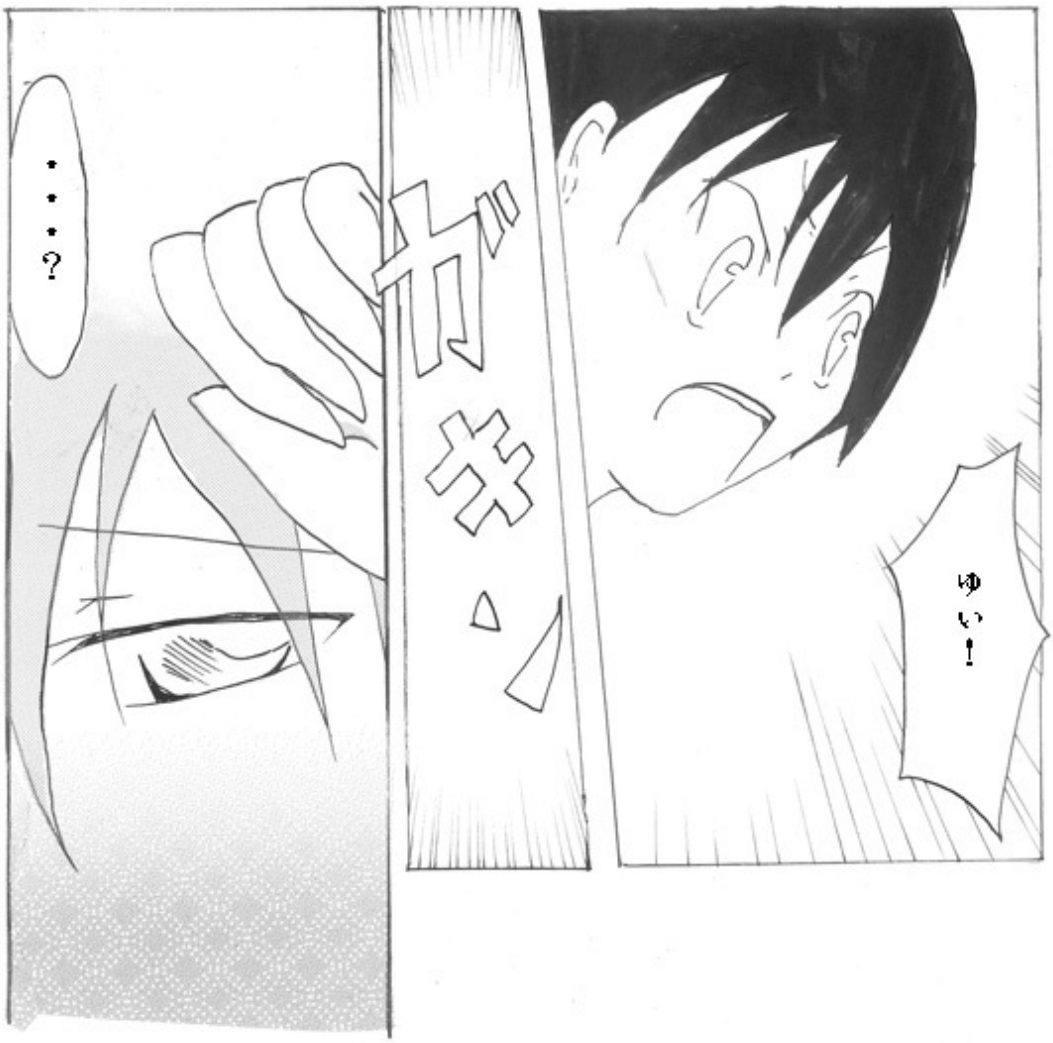

……

なぁ…
これって…
ねぇたくや…
いまさらだけど…

…？
私こんなかんじのお話知ってる…
は？
注文していくの…そしてね…注文されてた人はね…
食べられちゃうの。
ギロ

あれ？
気付いたようだよ
あたりまえさ
あんなに注文するから・・・
どうする？
どうする？
どうしよう…
どうしてやろう
たべちゃう？
たべちゃおう

きゃあ！


ゆい！
ガキ
・・・？

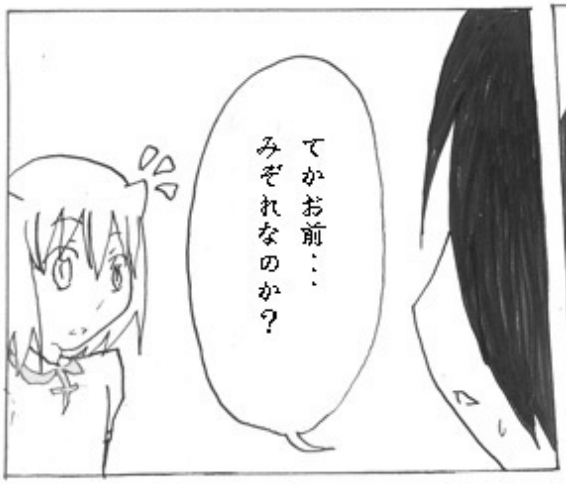
みっ…
!!?
!?
ザッ…

はぁ！
ぎゃっ
ポ
……カ

ボクはシルクォード・スリート。
シルクと
およびください。
ぐぁ

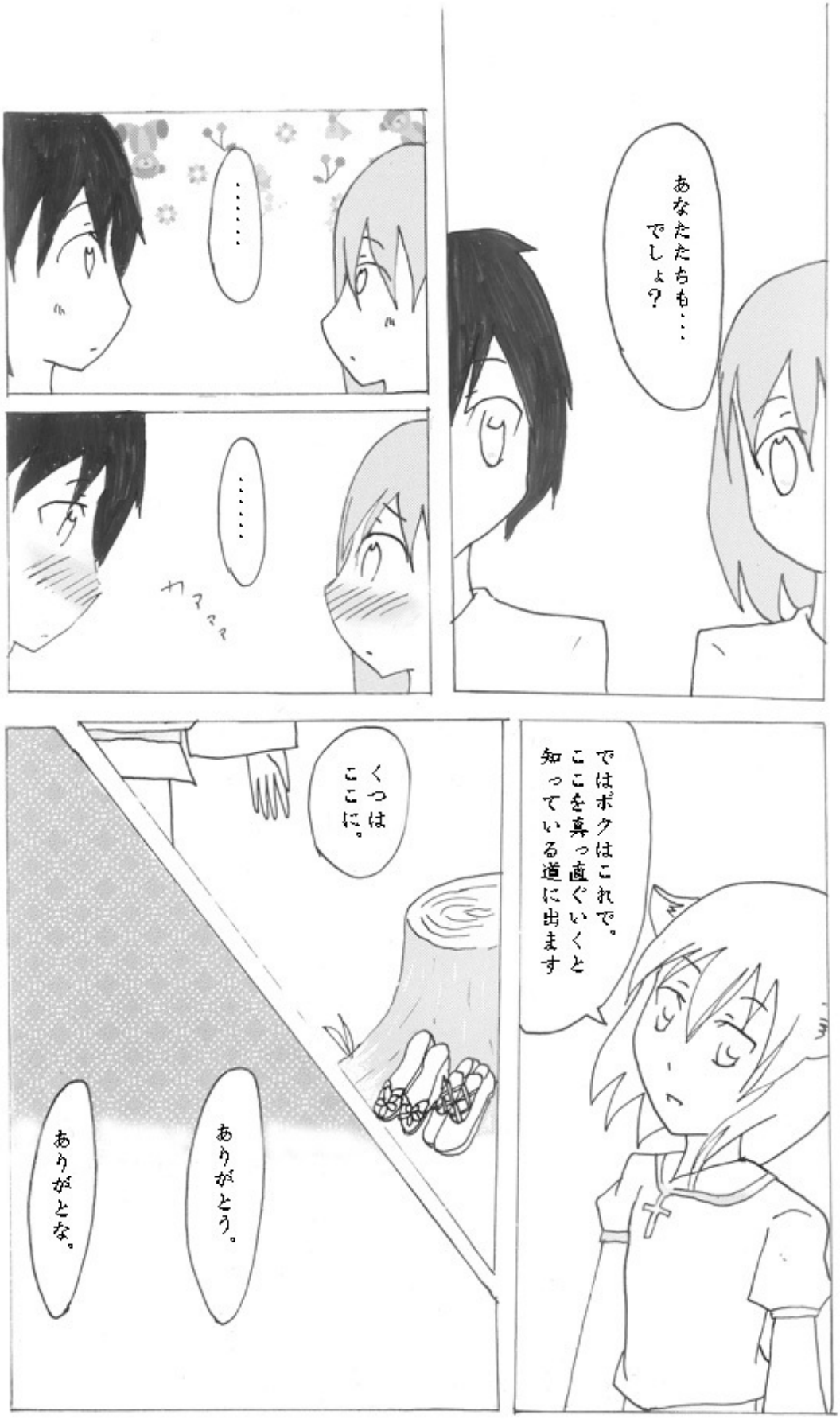
はっ！
ぎゃああ！
オレらのえものが・・・
えものが・・・

森にもどって…


てかお前…
みぞれなのか？

ボクは
シルクォー…

みぞれー！
!!?
なっ
助けてくれたのね！
ありがとう！
怪我は大丈夫？
おなかすいてない？
はい。あなた方が
助けてくれたからボクは
たたかえた。
勇気が出せた。
きっと…
？


あなたたちも…
でしょ？
……
……
カァァァ
ではボクはこれで。
ここを真っ直ぐいくと
知っている道に出ます
くつは
ここに。
ありがとう。
ありがとな。

カマ
カマ
まさか
木のカゲを
夜と間違えてた
なんてねー
うん…
勇気…か…
おれも……
……
あのさ！
ゆい！
オレ…！

私　注文多いよ！

注文の多い料理店

http://p.booklog.jp/book/24312

著者 : yuyuyume
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/yuyuyume/profile

発行所 : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/24312

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/24312